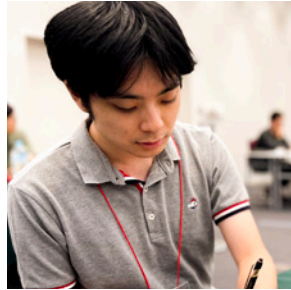


CHESS Magazine♔

#22

October 2025
japanchess.org



JAPAN OPEN 2025



Interview 大塚翔生さん

全日本女子チェス選手権2025
全日本シニアチェス選手権2025 他



Japan
Chess
Federation

03 JAPAN OPEN 2025

[優勝者自戦記] IM Hafiz Arif Abdul

マスターかく語りき IM 小島慎也

21 Japan Open 2025 Challenger カテゴリー

23 全日本女子チェス選手権2025

[優勝者自戦記] Elizabeth Ivanov

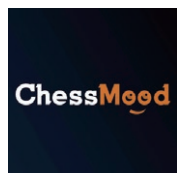
全日本シニアチェス選手権2025

[優勝者インタビュー&自戦記] 東野 徹男

32 2025 CTCA International Chess Open 大久保香織

34 インタビュー 大塚翔生さん

38 チェス大会inアメリカ NO.85 上杉賀子



Japan
Chess
Federation



JAPAN OPEN 2025

SEP. 19 - SEP. 23, 2025

THE STRONGEST-EVER FIELD IN JAPAN. 9-ROUND/FIDE/176 PLAYERS.



9月19日（金）から23日（火・祝）まで、きゅりあん（品川区総合区民会館）を会場にして開催された「ジャパンオープン2025」は特別な大会になりました。Vision 2030で掲げる「競技力の強化」の一つ、日本選手のGM輩出を目指し、「ノーム取得が可能な本格的な国際大会を開催すること」が2025年度の日本チェス連盟の事業計画の柱であり、それが「ジャパンオープン2025」でした。ノーム取得が可能となるように、

1.ラウンド数を9ラウンド。そのために日数を5日。

2.GM・IMを招致。招致するためにオフィシャルホテルを指定し、条件を満たすGM・IMは宿泊無料。

3.平均レーティングを一定水準に維持確保するため、MasterとChallengerの2 カテゴリー制とし、Masterはレーティング2000超に限定。参加費もレーティング帯によって差異化。

これらの必要要件に加え、GMレベルの対局のジャッジを適正に行うため、また高レベル大会の設営・運営にもアドバイスをもらうため、海外からIA/IO(International Arbiter/International Organizer)資格のあるベテランを招致。また従来よりも厳格なAnti-Cheating対応を行い、クローク運営や探知機によるチェックを実施。また不戦防止のためペアリングは当日に組む。またアピールコミッティ（アービターの裁定に対して異議を申し立てる制度）を設置、などが実施されました。Master カテゴリーについては全棋譜のFIDE宛報告を迅速に行うため、大会中から棋譜の入力と公開が行われるなど、国際大会の名にふさわしい格式ある大会となりました。連盟ボランティアスタッフによる2年越しの準備で、多岐にわたる課題をすべて克服して開催を迎えました。

天井が高い広々とした会場に Master カテゴリー 35名、Challenger カテゴリー 141名、合わせて176名のプレーヤーが盤をはさんで向かい合う姿は壮観でした。9Rスイス式、持ち時間90分+30秒/手で行われた国内・FIDE公式戦の模様をレポートします。



レーティング2611でリストトップのアルメニアのGM Ter-Sahakyan, Samvel選手は1993年9月19日生まれなので、ちょうど大会中に32歳となりました。2009年にGMとなり、2020年と23年にはアルメニアチャンピオンとなりました。22年のチェンナイオリンピックにアルメニアチームの一員として出場し、チームの銀メダル獲得に貢献。翌23年にはヨーロッパチーム選手権に出場して銅メダル獲得の一翼をにいました。今年5月からシンガポールのチェス学校と10か月の契約を結び、60～70人の生徒にチェスを教えています。「やりがいのある仕事だが、合間の週末に短い持ち時間のトーナメントにたまに出るくらいで、実戦から遠ざかっているのが悩みの種」で、「私も妻も前から日本に関心があり、一度は行ってみたいと思っていた」ので1週間ほどの日本旅行を兼ねて、「強いプレーヤーと真剣勝負ができるから」ジャパンオープンに出場を決めたそうです。



リスト2番目、レーティング2536のGM Velten, Paul選手はフランスチェス連盟に所属し、1993年8月10日生まれの32歳です。2018年にGMとなりました。12年と13年には連続してフランスユース選手権U20で優勝しています。そして今年の3月、ルーマニアで開催されたヨーロッパ選手権に出場して20位（7.5/11P、Elo performance 2675）となり、FIDE World Cup 2025（10月30日から11月27日にかけてインド・ゴアで開催）への出場権を獲得しました。「夏のこの時期なので半分はバカンスの旅行、半分はWorld Cupに向けた調整」のためジャパンオープンに出場することにしたそうで、目標は第一に「よいゲームを指すこと。その結果として1位になれば嬉しいが、World Cupに向けて自信を持てるように頑張りたい」と話しておられました。



レーティングでこの二人のGMに続くのはインドネシアのベテランGM Megaranto, Susantoです。そしてインドの女子ナショナルチームの副コーチを務める実力者GM Swayams, Mishra、韓国の若手IM Lee, Junhyeok (1999年生まれ) と FM Kwon, Sehyun (98年生まれ) など、自国のチェス愛好家ならば誰でも知っているつわものたちが参戦してきました。彼らに並ぶとインドネシアのIM Hafiz, Arif Abdul (ジャパンオープン2024で3位入賞) でも目立たないくらい、そうそうたる顔ぶれが集まりました。



DAY 1 / ROUND 1-2



レーティングでかなり格上の海外選手たちに日本のトッププレーヤーたちがどう立ち向かっていくか。各ラウンド (R) すべて目の離せない大会だと思っていたら、第1RからいきなりCM 中原鑑がやってくれました。GM Megarantoのやや強引な攻めをうまくいなしながら受け止め、反撃技を綺麗に決めて39手で勝利。GMに勝った！中原は午後の第2RでもIM Hafizからドローを奪い、一躍注目を浴びることになります。

その第2Rで一番早くゲームが終わったのはGM Megarantoでした。開始して2時間足らず、CM Averbukh, Alexを相手に消費時間30分ほどで圧勝。GMの底力を見せつけました。

そして開始から4時間以上、最後に終わったゲームがVelten—南條戦でした。「Londonシステムは好きで、一つの大会で1~2局は指す」(Velten) GMを相手に、がっぷり四つに組む戦いを繰り上げたIM南條遼介は、49...Ng3?まではずっと形勢ほぼ互角でした。GM Ter-Sahakyanと壮絶な打ち合いの末に力尽きたIM小島慎也と並ぶ惜敗でした。



DAY 2 / ROUND 3-4



大会2日目、午前の第3Rで韓国の俊英IM Lee がGM Veltenと引き分け、日本のFM 大塚翔生がGM Swayamsと引き分けました。続く午後の第4Rでは1番ボードがVelten対Ter-Sahakyan戦、リスト1位と2位の直接対決です。相手の実力を知った選手同士、時間を使いながら指し手は慎重に進められ、20.Ba2までで両選手合意のドロー。手数は少ないですが、濃密な時間が流れ、16時42分の終局でした。それから時間が経過して17時、17時半、18時となっても会場に動きはありません。こんこんと読みふける選手たち。指して時計を押す小さな音だけが会場にかすかに響く静寂の世界。ようやく18時をしばらく過ぎるあたりから、一局、また一局と終了し、最後の一局となったのは古谷昌洋-Song, Samuel戦。ルーク+4ポーン対クイーン+1ポーンという珍しい形のエンディングとなり、82手でドロー。終局は19時47分でした。

DAY 3 / ROUND 5-6

大会3日目、午前の第5Rで大きな出来事がありました。IM HafizがGM Veltenを破ったのです（IM Hafizによる自戦解説をご覧ください）。レーティング差150を跳ね返して勝利したIM Hafizは4.5/5Pでトーナメントリーダーとなり、0.5差の4.0PでIM Lee、GM Ter-Sahakyan、GM Megarantoの3人が追う形になりました。次いで3.5PにFM Kwon とChen, Muxi、そして3.0Pグループ9人のなかに日本のCM中原、IM Tran, Thanh Tu、FM 青嶋未来、IM 南條が食い込んで、大会は折り返すこととなりました。

午後の第6Rは彼ら上位選手同士の直接対決です。1番ボードGM

Ter-Sahakyan対IM Hafizは3時間を超える熱戦の末にドローとなり、IM Hafizが首位を堅持しました。2番ボードではGM MegarantoがIM Leeと対峙し、難解な戦いの末、一手のミス（28.Qb5?）を的確にとがめたGM Megarantoが勝ちました。初戦でCM中原に苦杯をなめたGM Megarantoでしたが、その後は5連勝で見事に復活し2位に昇るのでした。気になる日本選手たちですが、IM南條はGM Swayamsに敗れましたが、IM TranはSong, Samuelに快勝。青嶋一中原の日本勢対決はFM青嶋に軍配が上がり、この結果IM TranとFM青嶋の2人が同率4位グループにとどまり、上位進出へ望みをつなぎました。



DAY 4 / ROUND 7-8



大会4日目、午前第7Rの注目はなんといっても1番ボードGM Megaranto対 IM Hafiz、インドネシア選手同士の対決でした。白星を重ねて意気軒高のGM Megarantoは中盤から元気よく攻勢に出ますが、IM Hafizは冷静に対処して粘り強く応じ、白の攻めを指し切らせて勝ちました。今大会の充実ぶりを示す快勝譜となりました。この勝利でIM Hafizは6.0/7Pとなり、観戦者かいいいは「GMノームを達成するか!？」と色めき立つのでした。

この第7Rの日本勢は、FM青嶋がChenに勝ちましたが、IM TranはFM大塚に敗れ、IM南條がCM Averbukhに勝ちと、悲喜こもごもの結果となりました。

続く午後の第8RではFM青嶋がIM Leeとドロー。FM山田弘平に勝ったFM大塚と共に5.5Pに到達して、IM Hafiz 6.5P、GM Ter-Sahakyan 6.0Pに次ぐ同率3位グループに割って入りました。IM TranはIM南條に敗れて一歩後退です。

ちなみにこの第8R、下位のボードに目を移すと、若い2選手がお疲れのようで、開始して小一時間、14手で合意ドローとなりました。長丁場の大会ならではの現象ですが、その一方、80歳を超える最年長選手のFM Jones, Stephenはたっぷり3時間を超える激戦を制して勝ち、終局後も会場に残って、未だ進行中のゲームを熱心に観戦していました。チェスというスポーツには年齢はあまり関係ないようです。



DAY 5 / ROUND 9



9月23日の最終第9Rの組み合わせはこうなりました。()内は8R終了時点での獲得ポイント数です。

- 1番ボード：大塚 (5.5) —Hafiz (6.5)
- 2番：青嶋 (5.5) —Ter-Sahakyan (6.0)
- 3番：Kwon (5.5) —Lee (5.5)
- 4番：Gu, In Jung (5) —Velten (5)
- 5番：Megaranto (5) —Tran (5)
- 6番：Swayams (4.5) —Owen, Michael (4.5)
- 7番：小島 (4.5) —Martin (4.5)

です。1位と2位がわずか0.5P差で、さらに0.5P差で密集する上位陣、10位までの入賞枠をめぐるせめぎあいは熾烈です。トーナメントリーダーのIM Hafizにしても、負けは論外ですし、ドローでも追いつかれてタイブレークで2位に落ちかねませんから、勝たねばなりません。重圧がかかるなか、IM Hafizは顔色ひとつ変えず淡々と試合に臨みました。お互いの駒がじりじりと間合いを詰める緊迫した展開のなか、FM大塚の指しすぎ(22.Ngxe5?)をIM Hafizは見逃さず、妙手(23...Rxe5)で切り返して優位に立つと、最後は華麗に決めて(43...Rxg2 44.Rxg2 f3+)勝利。観戦者の目を奪う快勝で大会を締めくくり、優勝に花を添えるのでした。おめでとうございます！

DAY 5 / ROUND 9



2番ボードの青嶋—Ter-Sahakyanは形勢が微差のねじり合いが続いた末、60手まででGM Ter-Sahakyanに軍配が上がりました。全日本選手権で優勝2回（2019、2022）のFM青嶋、一歩及ばず。勝ったGM Ter-Sahakyanはワールドクラスの力量を改めて示す形となりました。準優勝おめでとうございます！



こうして「ジャパンオープン2025」は幕を閉じました。大会終盤では1人にGMノーム、3人にIMノーム取得の可能性があります。また全テーブルにテーブルクロスを設置され、GMや日本トップ選手の対局を極力配信カバーするため、DGTボードが従来の4ボードから8ボードに倍増されました。格調高い雰囲気にも包まれた対局場で、整然とスケジュールどおりの運営がなされたから、開催時に掲げた目標「ノーム取得が可能な本格的な国際大会を開催すること」が達成されたと言えます。次回は誰かがノーム取得する

のではない、それはきっと日本選手か、などと夢がふくらむ大会となりました。運営スタッフの皆さん、お疲れさまでした！

<Master Category>

- 1位 IM Hafiz, Arif Abdul 7.5/9P
- 2位 GM Ter-Sahakyan, Samvel 7.0
- 3位 FM Kwon, Sehyun 6.0
- 4位 IM Lee, Junhyeok 6.0
- 5位 GM Velten, Paul 6.0
- 6位 GM Megaranto, Susanto 5.5
- 7位 GM Swayams, Mishra 5.5
- 8位 IM Tran, Thanh Tu 5.5
- 9位 FM 青嶋未来 5.5
- 10位 FM 大塚翔生 5.5

全日本チェス選手権2026シード権
獲得者

IM Tran Thanh Tu

FM 青嶋未来

FM 大塚翔生

IM 小島 慎也

CM Averbukh Alex

NOTES BY

IM Hafiz Arif Abdul

IM Hafiz, Arif Abdul

GM Velten, Paul

Japan Open 2025 (5)

Jobava London D00

Okay this is the 5th round, I decided to play Jobava London. Last year Japan Open I also make an article about my game with Jobava London.

1.d4 Nf6 2.Nc3 d5 3.Bf4 g6

4.Nb5 This looks like a beginner's attack but this is the best engine line in the position.

4...Na6 5.e3 Nh5!? This move is the way to play for dynamic position.

6.Be5 f6 7.Bg3 c6 8.Nc3 Qb6

9.Rb1 Nxg3 10.hxg3 e5 11.Nf3

e4 11...Bd6? 12.dxe5 fxe5 13.Bd3



A) 13...Kf7 14.Ng5+ Kg7 15.Qf3 Qc7 16.Bxg6!! Kxg6 17.Rh6+! Kg7 18.Rxd6 Qxd6 (18...Rf8 19.Qh5 Qxd6 20.Qxh7+ Kf6 21.Nce4+ +-) 19.Qf7+ Kh6 20.Kd2 Kxg5 21.Rh1 Qg6

22.Qe7+ Kf5 23.g4+ Qxg4
24.Qf7+ Kg5 25.Qg7+ Kf5
26.Qxh8+–;

B) 13...e4 14.Bxe4 dxe4 15.Qxd6
exf3 16.Qe5++–

12.Nd2 Be6?!



Looks normal development but
this lets the following move.

12...Nc7 13.Ne2 Be7 14.c4 a5=

13.b4! Seize the initiative, the
pawn is poisonous.

13...Nb8 13...Bxb4 14.Bxa6
(14.a3? Bxc3 15.Rxb6 axb6 Black
has a very good compensation)
14...bxa6 15.Ncxe4 dxe4 16.c3±
White has a better game;
13...Nxb4 14.a3

14.Na4 Qc7 15.c4 Bd6 Pointing
to g3. 15...dxc4 16.Nc5! Bxc5
17.dxc5± Black has plenty
weaknesses.

16.Qb3 a5 17.b5 I dont want to
open the a file for black's rook
17.c5 Be7 18.Nb6 (18.Nxe4
original idea with Qb3 18...axb4
Black has open a file for his rook
now) 18...Ra7 19.b5 was also

good but it is not easy to see the
continuation for white

17...Nd7 17...cxb5? 18.Qxb5+
Bd7 19.Qxd5 Bxa4 20.Rxb7 Qc6
21.Qf7+ Kd8 22.Qxf6+ Kc8
23.Rxb8+ Rxb8 24.Qxh8++–

18.cxd5 cxd5 19.Nxe4 I think it
is safe to take this pawn now

19...Bb4+ 20.Nd2 20.Kd1!

20...Rc8 20...Nb6

21.a3 Be7 22.Bd3 Okay now
white has a pawn up but still not
easy to convert.

22...Kf7 23.Ke2 It is interesting
both player just move the king up
instead of castling.

23...Qd6 Attacking a3.

24.Ra1 24.Rbc1

24...Kg7 25.Nb1? I dont want to
give the a3 pawn too soon but
this idea takes lot of time.
25.Rhc1! was actually better.

A) 25...Rxc1 26.Rxc1 h5
(26...Qxa3? 27.Qxa3 Bxa3
28.Rc7) 27.Nc5±;

B) 25...h5 26.b6±

25...f5 25...h5

26.Ra2? 26.b6 should be played.

26...Nf6? Maneuvering to e4

seems nice but black has to act
fast to open the kingside.

26...h5!± 27.Rc2 h4 28.Rxc8
Rxc8 29.b6 (29.gxh4 f4–+)
29...hxg3 30.f4 Bf7 here black is
actually better.

27.Rc2 Now white starting to
fight the c file.

27...Rce8? 28.Qc3? I wanted to
simplify the position by exchange
the queen.

28.b6! with idea Nbc3 and Nb5.

28...Rc8 29.Qb2 Now the queen
is on b2.

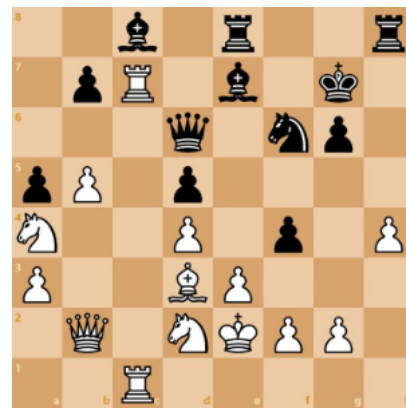
29...Rce8? 30.Rhc1 30.b6! with
idea Nbc3 and Nb5.

30...h5 31.Rc7 I cannot hold back
now, white infiltrate first.

31...Bc8 31...h4 32.Rxb7 hxg3
33.Rc6+– Black's queen attacked
and cannot go to kingside.

32.Nd2 Since black play f5, the e5
square is open now.
32.b6 still good.

32...h4 33.gxh4 f4





34.e4! This was my idea with Nd2. Counter intuitive it is opening the e file where the rook and king on the same file but since the e7 bishop also pinned black cannot really exploit the e file.

34...f3+? Trying to clear the way for the queen and f4 square for the knight via h5 but white has a solid defense.
34...dxe4 35.Bxe4 Kh6 even white still better, black still have some resources.

35.gxf3 Qh2 36.Nb6! Now the inactive knight comes to the game, and also control the f4 square via d5.

36...Bh3 37.e5 Kh6 38.Nf1 Bxf1+ 39.Rxf1 Nh5 40.Nxd5
 Black already lost too much material.

40...Bxh4 40...Ng3+ 41.Ke1 Nxf1 42.Qc1+ Kh5 43.Rxe7

41.Ne3 Ng4 fork.

41...Nf4+ 42.Kd1!? Kh5 42...Nxd3 43.Qd2

43.Be4 Now everything is under control.

43...Bg5 44.Qb1 Rd8 45.Kc2 Nh3 Preventing Rh1.



46.Bxg6+! Now it's white's turn.

46...Kxg6 46...Kh6 47.Ng4+;

46...Kh4 47.Nf5#

47.Kc3+ Kh5 48.Rh7+ Bh6

48...Rxh7 49.Qxh7+ Bh6 50.Qf7+ Kh4 (50...Kg5 51.Qf5+ Kh4 52.Qg4#) 51.Nf5+ Kg5 52.Qf6+ Kf4 53.Nxh6#

49.Qf5+ Ng5 50.Ng4 Qh3

51.Rh1 Black's king fully surrounded from all sides.



51.Nf6+ Kh4 52.Qf4+ Qg4 53.Qxg4#

51...Qxh1 52.Nf6+ Kh4 53.Qg4# 1-0

Japan Open 2025 Champion Impressions IM Hafiz Arif Abdul

Playing in the Japan Open 2025 was an incredibly special experience for me. The atmosphere, the flow, the story and of course the games made it one of the most memorable tournaments I've ever participated.

Last year, I finished third. It was a good result. But I think there are still some parts I could have done better. This year's tournament was tougher, with many strong players participating, but that made it even more exciting and more reasons for me to give my best.

Over the past year, I kept playing strong tournaments overseas. Not only to strengthen my chess but also mental and preparations. I have learned that to play best one of the important non-technical factor is to balance the joy and pressure. People often gets too much pressured when playing against someone who has higher Title or Rating. Funnily one of the confidence I have is that I believe I understand 日本語 better than my GM opponents, just after the 2024 Japan Open I took my first JLPT test and passed N3. 日本語のおかげで自信が上がりました。

Every achievement, I believe, is built upon countless efforts. It's like breaking a rock, you may

have to strike it a hundred times before it cracks, but without those 99 strikes, the last one may not succeed.

This victory feels like that moment when the rock finally breaks. Every loss, every lesson, every games I have experienced in the past not less important as the games I played in the tournament. And for me, this is just another step forward. I want to keep learning, improving, and becoming stronger.

I really want to thank organizers and staff that made this Japan Open 2025 possible, everything ran smoothly and passionate. I heard that most of the staffs in Japan are volunteers それは本当に感動しました。This is probably the early stage of breaking the rocks, I believe Japan has all the requirements to have a very strong chessplayer in the future. 無駄にはなりません、頑張ってください！好きなゲームが憧れの国に増えているのを見ると嬉しいです。It's wonderful to witness the dedication and enthusiasm of the Japanese chess community. Having my name written in Japan's chess history truly means a lot to me.

I sincerely hope chess will continue to flourish and more recognized in Japan.
ありがとうございました。



マスターかく語りき

小島慎也

嵐のような5日間であった。9/19-23まで東京の大井町で開催されたジャパンオープンは、例年とは違う様相を呈した。普段の国内大会では上位ボードで試合をし、優勝争いをするレーティング2000オーバーのプレーヤーたちが、下位ボードで苦戦をする様子はなかなか見られるものではない。しかし、これこそが求めていたもの、日本のチェスに必要なものだったのではないだろうか。

「今年のジャパンオープンはノーム獲得チャンスのある大会にしたい。」早い段階で運営からそう聞かされていた私は、内心それはなかなか難しいだろうと思っていた。GM、IMのタイトル獲得に必要なノーム獲得の条件は容易ではなく、9試合の大会でのGMノームの条件はざっと以下の通りである。

- ・パフォーマンス2600以上（IMノームなら2450以上）
- ・GM3人以上と対戦（IMノームならIM3人以上）
- ・対戦相手の平均レーティングが2380以上（IMノームなら2230）
- ・自分以外の3つ以上のFIDE国籍のプレーヤーと対戦

これらの条件をすべてクリアしなければならず、海外の大会を見ても、ノーム獲得者はそう頻繁に登場するものではない。総当たり形式で事前に参加するプレーヤーを決め、一定の戦績を収めれば必ずノームが取得できるようにする、いわゆるノーム大会も開催さ

れる。しかし、それもマスターのキャンセル1つで成り立たなくなるため、リザーブのマスターを確保しやすい国以外では安心して開催できない。それほどノーム獲得チャンスのある大会を開催することは大変なのだが、それをオープン形式で、なおかつ日本で開催するとなれば、その難しさが想像できるだろう。もちろん、これまでノーム獲得チャンスのある大会が日本で開催されたことは一度もない。

遡れば7/1にジャパンオープンの要項が発表され、昨年との違いに驚いた人も多かっただろう。マスターとチャレンジャーカテゴリーの区分、5日間で9R、電子機器の持ち込み禁止など、日本では初の試みも多かった。それだけ日本チェス連盟が、ノーム獲得チャンスのある大会作り、さらに言うなれば日本のチェスのレベル引き上げに本気であるという姿勢を見せてきたと感じた。思えば、日本チェス連盟は1年半前にVision 2030を公開し、そのなかで「競技力の強化」や「マスター数の増加」、さらには「海外からGMやIMを招聘し、ノーム大会を開催」と目標を掲げている。厳密にはジャパンオープンとはノーム大会ではないが、マスターカテゴリーにはGM4人が参加し、上位の平均レーティング

が2380を超える、GMノーム、IMノーム獲得チャンスのある大会となった。優勝したインドネシアのIM Hafiz, Arif Abdulが2600を超えるパフォーマンスを出しながら、対戦相手の平均レーティングがわずかに2380を下回り、GMノームを獲得できなかったのは不運でしかない。ただし、これもオープン大会では起こりうることである。

ちなみに私はジャパンオープンの要項を見た際、日本の誰かがノームを獲得することがベストだが、それが叶わなかった場合、海外籍の誰かがノームを獲得できればよいと思っていた。それは来年以降も「日本の大会ではノーム獲得のチャンスが十分ある」と海外の強豪プレーヤーに考えてもらい、日本に来てもらうためである。日本のチェスのレベルを引き上げるうえで必要なことは多いが、強いプレーヤーの試合を直接見る、そして実際に指す機会を増やすことは必須である。GMが普段から間近でプレーしている国と、GMが誰もいない国では、チェスが強くなることへのプレーヤーの意識やモチベーションが違うのは当然だ。今回のジャパンオープンではノーム獲得者こそ誕生しなかったが、日本の大会でもノーム獲得のチャンスがある、と、十分に知らしめる効果はあったのではないだろうか。

私がチェスを始めた頃、日本にはIMが1人もいなかった。それが現在は3人おり、オリンピック代表も平均が2300以上、GMだけのチームにも勝つような、昔の基準からすれば奇跡のようなことが起きるようになった。しかしこれは奇跡ではなく、日本のチェスがステップアップしてきた結果であり、今後さらに上を目指すための通過点でしかない。「奇跡だ」ではなく「今の日本のレベルなら、こうした結果もあるよね」と言われるようにしたい。またチェスのレベルが上がってきたのであれば、それと同様に日本国内の大会に求められる基準も上がって然るべきである。「GMが複数参加している」「レーティング2000以上でも苦戦する」日本ではまだ珍しいことが、将来はごく当たり前のようになっていくことを願っている。もしそうなった場合、1つの転換点として挙げられるのが、今年のジャパンオープンであることは間違いない。来年以降のジャパンオープンや別の大会がどうなるかはまだ分からないが、5日間どころではない長い嵐を乗り越え、今年のジャパンオープンを成功させた運営スタッフたちであれば、また素晴らしい大会を開催してくれることに、大きな期待を寄せずにはいられないだろう。



Japan Open 2025 Challenger カテゴリー

Master カテゴリーと同時並行で行われたChallenger カテゴリーには日本選手78名に加え、16の国と地域（バングラデシュ、中国、フランス、ドイツ、香港、インド、キルギスタン、韓国、マレーシア、ネパール、シンガポール、タイ、台湾、トルコ、アメリカ合衆国、ベトナム）から63名が参加しました。総勢141名。70のチェス盤がずらりと並んで老若男女いり混じる光景はまさに国際大会そのものでした。

前半4Rが終わって4連勝はThapa, Lekha Bahadur、杓谷啓太、Zhou, Tonyの3名。次いで3.5PでXue, Shixuanら8人が追走する展開になりました。その8選手中7名が海外出身の選手ですが、そこにただ一人、荒木大が食い込みました。新居冬馬（1859の選手に勝

つ）、横田祥明（1971の選手に勝つ）、柿島陽奏（1903の選手に勝つ）らのアップセットも目を引きました。また第1Rの木原平一三津山六花は4時間42分の熱戦となり、加えて続く第2Rでも木原と三津山はそれぞれ別の選手と、持ち時間を一杯に使って4時間に迫る熱いゲームを繰り広げました。拍手！

大会後半、ラウンドが進むにつれ、上位に踏みとどまる選手、脱落する選手、中位から上がってくる選手らに徐々に分かれていきました。また第8Rで22番ボードのJiang, Lunin対WCM小島なつみ戦。終局は夜の19時38分で、広い会場にこの一局だけが残る79手、4時間越えの熱戦でした。ポイントを取って少しでも順位を上げるべく、全力をつくしてプレーする。観戦者にスポーツの醍醐味を感じさせてくれる一局でした。

そしていよいよ最終の第9R。互いに7Pで1-2位に並んだのは韓国の

Kim, Taewoo A（2002年生まれ）と中国のXue, Shixuan（2002年生まれ）でした。Kimは韓国国内での公式戦に加え、昨年末にイギリスで行われた98th Hastings International Chess Congress - Hastings Mastersなど、内外の公式戦に頻繁に出場しています。対するXueは今年3月のZonal 3.5 Chess Championship 2025 Womanや6月の2025 China Chess Championship (Women)など国内の大会で腕を磨いています。たまたま同じ年に生まれた、伸び盛りの二人のぶつかり合いは両者一步も譲らず、ドローで決着しました。

日本勢で注目は杓谷選手でした。4連勝スタートの後、ずっと1番～5番ボードにとどまり続け、最終的に6勝1敗2ドローで4位入賞を果たしました。1大会でレーティング75プラスという素晴らしいパフォーマンスでした。その杓谷をタイブレークで上回った北神匠は対



Challenger カテゴリー 1位 Kimさん（左）と同2位Xueさん（右）

照的で、初めの3Rで1.5Pと出遅れたものの、よく立ち直り、その後の6試合を5勝1ドローで乗り切り、逆転で3位入賞となりました。また Patil, Rushadが9位にすべりこみました。また惜しくも入賞には届きませんでしたが、野田龍（レーティング1800代～1900代の7選手に当たって3勝1敗3ドロー）はレーテ

ィングがプラス116で、まさに飛躍の大会となりました。皆さん、おめでとうございます！

◆Challenger カテゴリー

1位 Kim, Taewoo A 7.5/9P

2位 Xue, Shixuan 7.5

3位 北神 匠 7.0

4位 杓谷 啓太 7.0

5位 Baisynov, Islambek 7.0

6位 Tran, Duc Hung Long 5.5

7位 Wu, Chen- Hao 5.5

8位 Sun, Chang Jyu 5.5

9位 Patil, Rushad 5.5

10位 Xu, Xiaodi 5.5



Challenger カテゴリー入賞者



Tournament Report

大会レポート

全日本女子チェス選手権2025 全日本シニアチェス選手権 2025



全日本女子チェス選手権 2



オープン入賞者

全日本女子チェス選手権2025

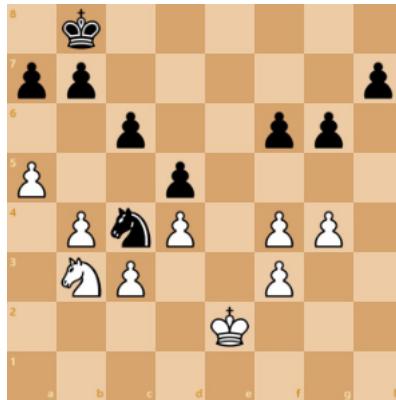
外は暑い夏。冷房のきいた室内でも負けず劣らず、熱い戦いが繰り広げられました。

2025年8月16日(土)と17日(日)、きゅりあん（品川区総合区民会館）を会場にして全日本女子選手権2025が開催されました。6Rスイス式、持ち時間45分+30秒/手の国内スタンダード公式戦です。昨年（20名）を上回る26名が出場して覇を競い合いました。

初日は第2Rで小島なつみ1/2-1/2三津山六花、WCM同士が痛み分けのドローとなるなど接戦が多く、3R終了時点で3戦全勝はIvanov Elisabethただ一人。半ポイント差の2.5で木下奏子、小島、三津山、Wong Linda Janeの4人が追いかけます。初戦でつまずいたWCM坂井あづみもその後よく立ち直り、2ポイントグループに入って虎視眈々。この状況で2日目を迎えました。

8月17日(日)午前の第4Rが終わると、Ivanovが4勝で首位を守るも、小島と三津山が3.5ポイントでピタリ追走。そして3ポイントに坂井が上がってきました。続く2.5ポイン

トに8人がひしめく混戦状態で午後1時、第5Rを迎えます。



図は1番ボードのIvanov-小島、33.Kxe2の局面です。白の序盤の展開の遅れを見逃さず、黒の小島は果敢に攻めかかりましたが、白のIvanovは頑強に抵抗して踏みとどまり、両選手、相譲らずこの局面となりました。エンジンの評価値は-0.10(chess.com)ですから形勢互角。しかし人間同士のゲームでは山あり谷あり、「ここからが勝負！」です。エンジンはこの局面から33...b6 34.axb6 axb6 35.Nc1 Nb2を示しますが、キングを動かす前に自陣のポーンを突くのは人間の感覚に反しますし、ナイトの動きも意味不明です。そして実戦は

33...h5??

34.Nc5?

(34.f5! +4.24)

34...Kc7?

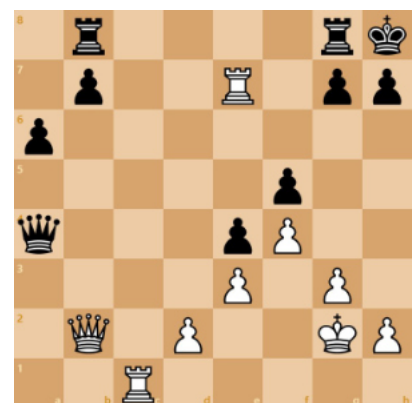
(34...hxg4 35.fxg4 0.00)

35.Ne6+?

(35.f5! +4.69)

持ち時間がなくなり、疲労困憊状態で1手30秒以内で指し続ければ誰でもこうなるでしょう。振り子の針は最後にIvanovに傾き50.Nb8までで小島がリザイン。見ごたえのある熱戦でした。

そして午後4時。5戦全勝で最終戦を迎えたIvanovの前に立ちちはだかったのが4.5ポイントの三津山でした。両者の差はわずか0.5ポイントなので、三津山が勝てば逆転優勝です。期待にたがわず激戦となりました。



図は三津山—Ivanov42.Re7の局面です。黒はaとbにパスポーンがあり1ポーン得ですが、白のクイーンが斜線（b2-g7）を制圧してg7に圧力をかけているため、黒のルークが釘付け(Rg8)となっています。形勢は互角（0.00）ですが、白は次にRcc7ともう1個のルークを7段目に侵入させようとしています。そうなると大事件なので、黒はぐずぐずしてはいられません。そこで

42...Qb5

とクイーンをぶつけました。ポーンの形が乱れること（43.Qxb5 axb5）は甘受して、斜線を攻めるクイーンを消そうとしたのです。そこまでは「守り」の発想ですが、もう一つ、この手には秘めた狙いがありました。

43.Qc3?

ここは43.Qxb5 axb5 44.Rc5 Rge8 45.Rxe8 Rxe8 46.Rxf5で白が有望な展開（+0.36）となるところでした。相手から「交換しましょう」と持ちかけられて「はい、わかりました」と素直に注文に乗る手は普通は良くないのですが、しかしここではそれが正解でした。なぜなら

43...Qe2+!

があったからです。Ivanovはこれを狙っていました。

44.Kg1 Rbd8

42手目とは局面の様相が一変しました。7段目（白の2段目）を黒が抑える形となり、黒が大きく優勢（-2.22）となりました。以下49手目までで三津山がリザインし、Ivanovが見事に6戦全勝でチャンピオンの座に就くこととなりました。おめでとうございます！

入賞者

オープン

優勝	Elizabeth Ivanov	6.0/6P
2位	WCM 三津山 六花	4.5
3位	木下 奏子	4.5
4位	加藤 杏実	4.5
5位	WCM 坂井 あづみ	4.0

U18

1位	山田 美沙希	4.0
2位	Mouscos Mia	3.0
3位	Jie Jingfei	3.0

U12

1位	Biju Pillai Nanma	2.0
2位	田代 琴子	2.0
3位	西川 蒼七	0.0



U18入賞者



U12入賞者

優勝者インタビュー 「スタンダード公式戦をもっとたくさん指したい」

How many years have you been playing chess?

I've been playing chess since I was 8 and I was inspired to keep playing when I saw the top players at the London Chess Classic in 2009 and made the first ceremonial move for Magnus Carlsen(photo). I also have a younger brother who used to play competitively so we would go to tournaments every weekend together.

I heard you changed the chess federation to Japan. Which federation was it before? Did you change it because you moved to Japan?

I changed my federation from England to Japan in the summer of 2024. I had enjoyed my time

representing England at the World Youth Championships and being a part of the England Juniors but since I graduated university I did not have any obligations to remain in London and my parents live in Kyoto so they were very supportive of my decision when I told them I would be switching federations. I'm very grateful to the JCF for approving the federation change as it has been a positive change for me.

Who is the professional chess player you respect?

The chess player I respect the most is GM Igor Smirnov. I appreciate his courses and his YouTube videos as it continues to help my understanding of the game as almost every opening and positional play I have learnt has been through his videos. His method of explaining is so

engaging and rare to find that I have to say I respect him the most.

You became the Japanese women's champion. What are your goals from here on out?

My goals from here would be play in more classical tournaments to gain the experience of the time format as I noticed I was in time trouble fairly often during the Japan Women's Championships. I had gotten heavily used to the blitz format this year as I stream on Twitch with what is usually a 5+0 time control so I'll aim to prepare for a classical format better next time.

<参考>

London Chess Classic in 2009
<https://en.chessbase.com/tagged?tag=London%20Chess%20Classic%202009>

全日本女子チェスチャンピオン2025
Elizabeth Ivanov



Magnus Carlsen氏の対局でセレモニアルムーブをした
Elizabeth Ivanov (当時8歳)



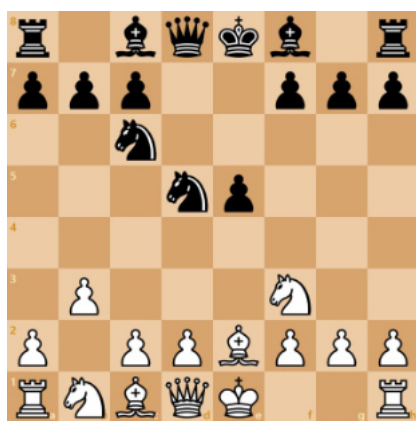


優勝者自戦記
Elizabeth Ivanov

My name is Elizabeth Ivanov and I won the Japan Women's Championship 2025. This is my round 2 game analysis against Takayasu, Melody. Takayasu is a dear friend of mine and despite playing in the same tournaments, we had never been paired in a rated match until this game.

Takayasu, Melody
Ivanov, Elizabeth
Japan Women's
Championship 2025(2)
Scandinavian Defense B01

**1.e4 d5 2.exd5 Nf6 3.Nf3 Nxd5
4.Be2 Nc6 5.b3 e5**



This was as far as my prep went, as I had never encountered 5.b3. I had seen the structures for black on GM Igor Smirnov's videos that the motive should be to push on e5 (when black has the opportunity to) so I went for this despite feeling

slightly uncomfortable that maybe this is a line white had prepared for.

6.Bb2 e4 7.Nd4 Nxd4 8.Bxd4 Nf4

I had spent several minutes wondering whether 6.e4 would be what white had hoped I would play as the bishop would be on a clear diagonal, however I pushed e4 regardless as I could not see any decent squares for the knight.

**9.Be5 Nxc2 10.Kf1 Bh3 11.Kg1
Qg5 12.Bg3 0-0-0 13.Bf1 Nf4
14.Bxh3+ Nxh3+ 15.Kg2 Nf4+
16.Kf1 h5 17.Nc3 Qf5 18.Bxf4
Qxf4 19.Ne2 Qe5 20.c3 Rd3
21.Qc2 Bc5 22.Re1**



22...Rf3

Instead of Rf3, I could have played Bxf2 however this move did not occur to me whilst my mind was so focused on how to attack the f2 pawn directly. It could have went 22...Bxf2 23.Kxf2 e3+, which the engine claims are -10 advantage as I have a forced checkmate if the pawn

is not taken and if the pawn was captured, I could win back my piece with Qxe3+ and bringing my rook from h8-e8.

**23.Nd4 Bxd4 24.cxd4 Qxd4
25.Re3 Rxe3 26.dxe3 Qe5 27.Rg1
Rd8 28.h4 Rd6**

28...Rd6 was a miss as I had the opportunity to play 28...Rd3 where I could have kept my rook firmly on d3 without much counterplay.

**29.Rg5 Qe6 30.Rxg7 Qh3+ 31.Ke2
Qf3+ 32.Ke1 Rd3 33.Rg3 Rxe3+**

After Rg3, I had decided to go for an extra pawn and go into a pawn and king endgame as I couldn't see any unstoppable threats with my rook and queen. Rg3 had given me back the advantage from a -3 position to -8 which I did not realise the significance of at the time as until this point, I was intentionally avoiding the major trades. I had prior moves to do a similar exchange for a free pawn but withheld from doing so as I was looking for a tactic with the major pieces.

**34.fxe3 Qxg3+ 35.Qf2 Qxf2+
36.Kxf2 f5 37.Kg3 Kd7 38.Kf4 Ke6
39.Kg5 ke5 40.Kxh5 f4 41.exf4+
Kxf4 42.Kg6 e3
0-1**

全日本シニア チェス選手権2025

「いやぁ、お久しぶり。お元気でした？」

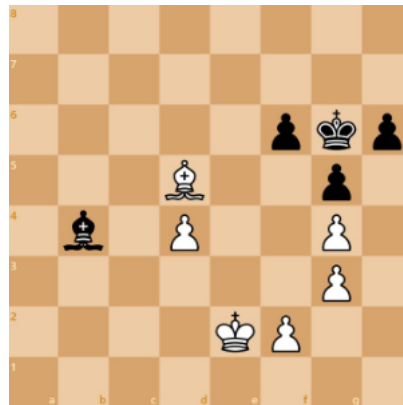
2025年8月16日(土)～17日(日)、きゅりあん(品川区総合区民会館)を会場にして全日本シニアチェス選手権2025が開催されました。日本チェス連盟の今年50歳以上になる会員(年会員)が参加して、6Rスイス式、持ち時間45分+30秒/手の国内スタンダード公式戦です。昨年(20名)を大きく上回る33名が出場しました。お互いに昔からの顔なじみが多く、初日の朝は会場のあちこちで談笑の花が咲きましたが、チェス盤をはさめば、きりっと顔が引き締まり、真剣勝負の2日間です。

初日3連勝は真鍋浩と東野徹男。次いで2.5ポイントにFM Jones Stephen、義之岳史、小山信行、Minamoto Marcos Cesar、Bhatia Praveenの5人が並びました。翌日は彼らの直接対決です。

8月17日(日)の第4R、1番ボード

は真鍋一東野、全勝者同士の対決です。キングズ・インディアンのクラシカルから長いねじり合いの末、東野が競り勝って単独首位に立ちました。ここから先、2位グループで勝った選手が次々と首位の東野に挑むことになります。

午後13:00開始の第5Rは東野一Jones。白がキングサイドにフィアンケットするのが東野の十八番ですが、Jonesも白でその形を指すので経験は十分です。盤上では激しく駒のやり取りが行われながら、形勢の針はほとんど動かない互角の戦いが続き、48.Ke2が図の局面です。



ポーンの数には4対3だが異色ビシヨップのエンディングで、これは

勝てないとドローで両選手が握手を交わしました。実力者同士のゲームならではの熱戦となりました。

首位の選手が引き分けたため、勝って差を詰めた2位グループが色めき立ちます。東野4.5ポイントに対し、4ポイントにJonesと真鍋と東芝輝臣の3選手が追いつがる展開となって、いよいよ最終ラウンドです。

第6Rは1番ボードが義之一東野、2番がJones一真鍋、3番が東芝輝臣一Minamoto。いずれ劣らぬハイレベルな戦いが繰り広げられ、結果は以下のとおり。オープン入賞の1～5位は昨年と全員が入れ替わる(昨年の1～5位が一人も入っていない)という珍しい結果となりました。入賞された皆様、おめでとうございます！

オープン入賞者



O65入賞者

入賞者

オープン

優勝 東野 徹男 5.5/6P

2位 FM Jones Stephen 5.0

3位 Minamoto Marcos Cesar 4.5

4位 真鍋 浩 4.0

5位 東芝 輝臣 4.0

O65

1位 神田 大吾 4.0

2位 石井 伊知郎 3.5

3位 杉本 公一 3.5

全日本シニアチェスチャンピオン2025
東野 徹男優勝者インタビュー
「今まで見られなかった世界を見てみたい」

シニア選手権優勝、おめでとうございます。全6局を振り返ってのご感想をお聞かせください。

リスト上位（1900以上の4人）と全員対戦することになり、タフな大会でしたが、自分としては大きなブランダーもなく良い内容のゲームが多かったので、結果も含めて、とても満足しています。

今大会に臨んで何か特別な準備をされましたか？

特別な準備ではないのですが、大

会前はルークエンディングの本を見返していました。あと、いつも序盤中盤に時間を使いすぎてしまうので、終盤に最低10分は持ち時間を残すように決めていたのですが、うまくいかなかったゲームもありました。

東野さんはフィアンケットの印象が強いのですが、黒番で1...d6に関心がおありとか。心境の変化ですか？

黒番では、いろいろな序盤を見よう見まねで指しています。1...d6は、いずれフィアンケットの形（Pirc、KID）に合流することがほとんどです。以前はModern

Defense（1...g6）も指していましたが、キャスリングできないことが多いのでやめました。

シニアチャンピオンになられて、これからの目標をお聞かせください。

まだ若いので（笑）、もっと強くなりたいです。強くなると、盤上の景色が変わって見えると想像しています。時間が許せば海外大会にもたくさん参加して、盤上でも盤外でも、今まで見られなかった世界を見てみたいです。



優勝者自戦記
東野 徹男

チェスのシニア選手権は、50歳以上の選手を対象とする大会で、私は昨年から参加資格を取得しており、今回初参加となりました。

「大きな公式戦は参加しなくなったけど、シニアだけは参加しよう」という選手もおられるなど、さながら同窓会のような和やかな雰囲気を感じられました。

さて大会の方は、5.5p/6で優勝することができました。本大会の目標の1つだったFM Jones Stephenさんとの初対局も印象深いのですが、ベストゲームとして、4Rの真鍋さんとの対局を紹介します。

真鍋 浩

東野 徹男

全日本シニア選手権2025(4)

KID, Orthodox Variation E94

1.d4 Nf6 2.c4 g6 3.Nc3 Bg7 4.e4 d6 5.Nf3 0-0 6.Be2 Nbd7 7.0-0 e5



1.d4にKing's Indian Defense

(KID)で対抗します。前回真鍋さんと対局したときはBg4と出る形でしたが、本局はKIDのNbd7型です。

Nc6型と違い、d4への圧力がないので、白はd4ポーンの処遇(d5と突き超すか、dxe5と取るか)を保留できます。黒は、白からd4-d5と突いてもらってセンターが閉じた形にして、キングサイドのポーンを伸ばしていくプランが基本です。

8.Be3 Qe7 9.Qc2 c6 10.d5 c5 11.Ne1 Kh8 12.f4 exf4 13.Bxf4 Ne5 14.Qd2 Ng8 15.Nf3 Bd7 16.Bg5 Qe8 17.Rae1 a6



Qe7~c6は、黒からexd4~Nc5などの筋を見せることで、白にd4ポーンの処遇を決めてもらいたい、という意味です。本譜はc7-c6-c5と2手かかりましたが、センターが閉じる形になりました。

ここから白は12.f4とキングサイドから仕掛け、黒はexf4と応じ、Benoniのようなポーン形になりました。通常のBenoniと違い、白のfポーンが消えており、黒がe5に置いたピースがポーンで追い返され

ることがないので、e5の支配をキープするとともに、クイーンサイドでのカウンターも視野に入れたところです。

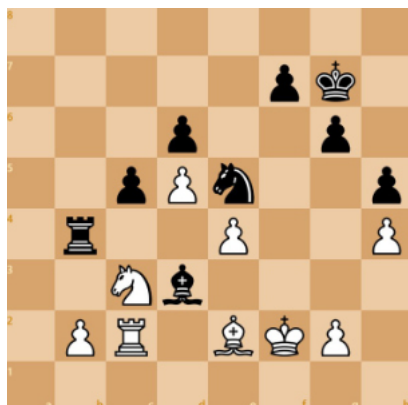
18.Nxe5 Bxe5 19.Bf4 Kg7 20.Bxe5 Qxe5 21.Qf4 Rae8 22.Qxe5 Rxe5 23.Bf3 b5 24.cxb5 axb5 25.a3 Nf6 26.Rf2 h5 27.h4 Rfe8 28.Rfe2 Rb8 29.Nd1 b4 30.axb4 Rxb4 31.Nc3



e5のマスで駒交換が進みますが、黒はe5にピースをキープし、白のビショップをbadな状態にしたまま、クイーンサイドでカウンターが作れている(Rb4がb2やe4のポーンを弱点として狙えている)ので、不満ないところです。しかし、ここから具体的にどう押していくかは難しいところでした。

まず、e5を抑えるピースをナイトにして、代わりにルークはa、bファイルに振り向けることを考えたのですが、例えば31...Re8と引くと白からe5と突かれてしまいます。また、Bd7が邪魔をしてNf6~Nd7(~Ne5)の組み換えができないので、Bb5と出る手も考えま

したが、Nxb5と平凡に応じられて戦力が減るのが気になりました（ただし、エンジンはBb5がベストと示します）。ということで、



31...Bc8!? 32.Ra1 Re7 33.Ra8
Bb7 34.Rd8 Rd7 35.Rxd7 Nxd7
36.Kf2 Ne5 37.Rc2 Ba6 38.Be2
Bd3
0-1 (Time)

Bc8～Ba6とするアイデアが見えました。31.Ra2とする手がBa6を防いで幸便なのですが、eファイルから離れたので32...Re7と引くことができます。33...Bb7の後、Rd8の代わりにRb8とする手にはBa6!の切り返しがあります。

ルーク1組が盤上から消えましたが、Ne5とBa6の形を実現できました。本譜は、37...Bd3の局面で時間切れとなってしまいましたが、e4かb2のポーンが取れそうな形で、その後も難しいディフェンスを白に強いることができそうなので、黒指しやすいと思います。

大会参加者はシニア選手権が33名、並行して開催された女子選手権が26名と、いずれも過去最高を

大幅に更新したとのことです。これもひとえに、運営スタッフの皆さんによって提供される、公正かつ快適な対局環境が貢献していることは間違いないでしょう。私も一参加者として、大会運営に携わった関係者、スポンサーの皆様に、深く御礼申し上げます。今後の大会も参加を楽しみにしています。



Tournament Report

大会レポート

2025 CTCA International Chess Open

大久保香織

夏休みは、息子が普段よりたっぷりチェスを楽しめる貴重な時間。台湾で開催された 2025 CTCA International Chess Open に参加してきました。毎日チェスコムで対局し、試合感覚を整えて臨みました。参加にあたり、チェス連盟の遠藤さんや海外大会経験のある保護者の皆さまが親身になってアドバイスをくださり、とても心強かったです。



大会はまずスタンダードから始まりました。持ち時間は90分+30秒加算という本格的な設定で、集中力を保ちながら戦い続けるよい練習になったようです。登録はU7カテゴリでしたが、実際の対局はU9・U11と合同。勝ったのか負けたのかわからない顔をして帰ってくることも多く、こちらも毎回ドキドキでした。

中日はブリッツ。スタンダードが1日2ラウンドなのに対し、半日で9ラウンドというスピード感。最初は持ち時間の切り替えに戸惑い、初戦から3ラウンドなかなか勝てませんでしたが、ようやく勝て

たときは思わず2人でぴよんぴよんしながらハイタッチ。U7で2位入賞できました。

次の日は休養日。Jino君と体を動かしてしっかりリフレッシュ。息子が負けたときにも声をかけてくれる優しい兄のような存在で、この日も一緒に遊んで笑って過ごせたことが、よい切り替えになったようです。日本にいる父ともメールやテレビ電話でやりとり。「U7ならまだ表彰の可能性あるよ!」「まだいけるよ!」と励ましをもらい、息子も気持ちを切り替えられたようでした。



後半のスタンダードは4ラウンド。ここからが本当の勝負でした。7ラウンドで接戦を制して勢いに乗り、8、9ラウンドも連勝。最後の試合は3時間に及ぶ熱戦となり、見事勝ち切りました。最終的に6ポイントでフィニッシュし、U7で優勝、U9・U11合同でも6位入賞という結果でした。



表彰式は、試合会場でもあるホテルの食事会形式という華やかな雰囲気でした。立派なトロフィーとメダルを手にして、息子は嬉しさを隠しきれない様子。賞金にも何度も驚いていました。



ブリッツ大会の表彰を受ける翠君（中央）



今回の台湾大会は、ただ対局するだけでなく、いろいろな年齢や国、性別の選手と真剣勝負を重ねられました。女子カテゴリーの選手も多く、息子にとって新鮮な経験になったと思います。日本チェスチャンピオンの南條さんも参加されており、最後に少し声をかけていただきました。母としても、息子の姿を間近で見守ることができ、充実した時間でした。この経験が次の挑戦への大きな一歩になると感じています。

Interview

インタビュー

大塚翔生さん

自分自身が心血を注いで 取り組めるもの それはチェスだ

おおつか・しょう

東京大学将棋部にて活躍中の2021年にチェスを始める。2021年のJapan Openで10位、2022年の東京選手で5位、同年の全日本選手権で11位と、短期間で全国上位レベルまで登り詰め注目を集める。2024年3月に東京大学を卒業し、直後からGMを目指して欧州を転戦。同年5月にCM、7月にFMのタイトルを獲得した。2025年5月には初のIMノームを獲得。同年6月、レーティング日本2位に到達した。



チェスを始めたきっかけは何でしたか？

中学、高校の将棋仲間と、「周り将棋」のような変則将棋をして遊ぶ中で、チェスも遊ぶことができました。ただその時はチェスにのめり込むようなことはなかったです。大学生だった2021年の2月ごろに、たまたまアニメの中でチェスが出てきました。それが楽しそうだったので、チェスをまた指すようになりました。このときはどっぷりはまってしまって、昼夜を問わずにChess.comで指し続けるほど熱中していました。

チェスに本格的に取り組もうと思ったきっかけは何でしたか？

夢中で指しているうちにレーテ

ィングが一気に上がる経験をしたのですが、それが嬉しかったのもありチェスにのめり込んでいきました。戦略を学ぶために見始めたYouTubeでルセナさんという方を見つけてからは、ライブ配信によくお邪魔するようになりました。ルセナさんから「X（旧Twitter）で強い人が活動しているから、その人たちと仲良くするのがいい」というアドバイスをいただき、アカウントを作って活動するようになりました。そこからは仲良くなった人とDiscordでVSをしたり感想戦をしたりしていました。オープニングや戦略を学び、強いプレイヤーと対戦していく中で、チェスを指すことの楽しさを強く実感するようになりました。

そこからマスターになろうと思ったきっかけに、大学の友人の存在がありました。私が所属していた学科には熱心に学問に打ち込んでいる人が何人もいて、並々ならぬ熱量を注ぎ込んでいたのがとても印象的でした。自分自身が心血を注いで取り組めるものは何かと考えたときに、それはチェスだということになりました。難しい道だということでは理解していましたが、成長すればグランドマスター（GM）になれると信じて取り組むことに決めました。

これまでに参加された中で、特に印象に残っている大会はありますか？

2021年11月のジャパンオープンで初めて対面の大会に出たのです



が、その時のことが印象に残っています。まず環境面では対局会場がすごく静かで、駒音がバチバチ鳴っていたり対局者の唸り声が聞こえる将棋の大会とのギャップが大きくて驚いたというのがあります。

対局のほうではラウンド2、5、6のことをよく覚えています。ラウンド2ではScott Tylerさんに完敗し、戦略面で学ぶべきことが沢山あることを実感しました。ラウンド5では野口さんと対局しました。オープニング、ミドルゲーム、エンドゲームの全ての局面で争いがあって二転三転しましたが、長い手数を戦った末に勝つことができました。これはとても嬉しかったです。ラウンド6でも途中まではいい勝負をできていたのですが、重要な局面で差をつけられて負けてしまいました。この2局からは、結果こそ逆になりましたが、オープニング・ミドルゲーム・エンドゲー

ムといった異なるフェーズにおいて長い持ち時間を使いながら競い合う経験ができ、今でもチェスが楽しいと感じる部分になっています。

大学卒業後すぐにヨーロッパの大会で転戦することを選択された時のお気持ちはどういったものでしたか？

自分が熱量を注ぎ込んで勝負できるのがチェスだと思って決めました。海外で戦うにあたって、たくさんの方からサポートしてもらうことができたのはとても幸運でした。そしてそういった方々に応えたいという思いもありました。

チェスのためにヨーロッパで長期滞在されたことは、今の大家さんの価値観にどのような影響を与えていると思いますか？

日本の恵まれた環境に改めて気づきました。例えば便利なコンビ

二、綺麗で美味しい水道水、整ったインフラなど、日本で当たり前には享受していたことが、当たり前のことではないことを実感しました。勿論、一概に日本の方が優れているというわけではありませんが、改めて日本が好きになりました。

また、チェスの強い国が多い東側にいくことがありましたが、実際に行ってみたことで印象が良くなりました。特にハンガリーのブダペストは街並みが美しく、物価や治安の雰囲気も落ち着いていて非常に良かったです。

パフォーマンスを上げるために、生活の中で意識していることはありますか？

トーナメントに参加しているときは、対局に向かうときに一番リラックスできている状態になるようにと考えています。決まったルーティンがあるわけではなくバラ

バラですが、チェスのトレーニングをすることもあれば、ご飯を食べたり散歩をしたりすることもあります。オープニングの準備をするときは、2時間ぐらいまでが理想だと思っています。

今後チェスプレーヤーとしてどのようなキャリアを歩みたいとお考えですか？

短期的な1年以内ぐらいの目標としてインターナショナルマスター（IM）の獲得がありますが、最終的にはGMになりたいと思っています。そして日本のチェス界をより一層盛り上げるのに貢献できればと思っています。

トーナメントでの負けに1人で向き合うのは時に難しく、仲間と共に学び、支え合いながらトーナメントを戦い抜く経験も更に積み重ねたいと思っています。そういった意味でもオリンピックにはぜひ出場したいと思っています。選考基準をクリアできたなら、なるべく出れるようにしたいです。

タイトル獲得の目標の他にも、より美しいゲームをたくさん残せるプレーヤーになりたいという思いも強いです。振り返ったときに「このゲームいいな」と思えるようなゲームをたくさん指して、自分の好きなチェスのスタイルを盤



上で体現できるようなプレーヤーになりたいと思っています。

最後に、読者のみなさんへメッセージがあればお願いします。

チェスには色々な楽しみ方があります。一方、強くなろうと思うと、楽しいだけでなく辛いことにも向き合わなければいけない部分がありますが、それを乗り越えた時にチェスをより好きになれる面もあります。自分自身もこの2年間時間を費やす中で、チェスへの愛着を以前より強く感じるようになりました。

チェス愛好家の数だけチェスとの向き合い方があり、どれも素敵なものだと思いますし、その中で、長い目で見て皆でそれぞれのチェス愛を育んでいければさらに

素敵だなと思います。

向き合い方だけでなく、チェスのどこが好きかも人それぞれだと思います。個人的にはチェスのゲーム性の美しさが特に好きで、そういったことをより多くの人と共有し合えたらいいなと考えてます。

ありがとうございました。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

（聞き手：マガジン編集部 鈴木秀聡）

普段の練習を 本番と同じ駒、同じ盤で



モダン・スタントン 96mm ヘビー



プラスチック製
駒のみ

¥3,980



Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

オフィシャル・スタントン 95mm



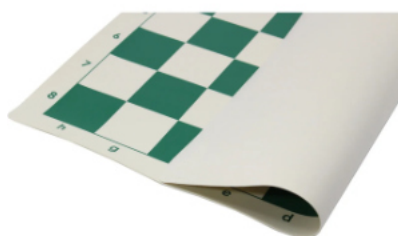
木製
駒のみ

¥13,800



Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

トーナメント 51cm 57mm



ビニール製
盤のみ

¥2,680

Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

モダン・トーナメント 44cm ヘビー



プラスチック製
盤と駒のセット

¥5,180

Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

他にもたくさんのチェス用品を取り揃えております
チェス用品のご購入は



CHESS JAPAN
GAME AND ART

Yahoo!ショップ：<https://store.shopping.yahoo.co.jp/chessjapan/>

公式HP：<https://www.chessjapan.com/>

※価格は掲載時点のものです。

チェス大会 【文】上杉賀子 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

息子（上杉 晋作・2007 年高校 1 年生で全日本史上最年少チャンピオン）が 2009 年チェス国籍日本の最年少 FIDE マスターとなり 2010 年全米高校選手権で優勝するまで（さらにアメリカの Senior Master の資格となる USCF レート 2400 の壁を超えるまで）参戦した、アメリカの全ての公式戦、約 180 大会の様子を順番に載せてみようと思います。渡米から 1 年半、紆余曲折を経て現地生活に馴染んできた頃、小学校のチェスクラブの案内を見かけて入部。これが始まりでした。その一年後、いよいよトーナメントプレイヤーとして出陣です。

NO.85 フォックスウッズ・オープン

2007 年 4 月 4 日～8 日

晋作(15歳)の結果: 4.0P/9Games

レーティング 2212 → 2201

大会詳細: [USCF サイトより](#)

4 月 4 日

車でボルティモア空港まで 1 時間、そこからサウスウェスト航空に乗ってロードアイランドの空港まで行き、そこでレンタカーを借りてまた 1 時間、なんとか会場の Foxwoods Resort & Casino までたどり着きました。本当に、「たどり着いた」という感じです。雨なので神経をつかいましたがレンタカーは快適に走りました。来月の全日本の練習になればと思います。（この一ヶ月後、高校 1 年で全日本チャンピオンとなり、今までの最年少記録を更新します。）参加国はちょっと数えたところアメリカ、晋作の日本以外にモンゴル、チェコ、グルジア、カナダ、ロシア、ナイジェリア、ドミニカ、スリランカ、ドイツ、セルビア、アイルランド、フィリピン計 14 カ国です。グランドマスターは 14-15 人、IM は 20 人くらい、若手のトップ達も続々集まってきました。Open の Scholastic Player はいつもながら全米を代表する子供たちです。晋作より年



大会前に東野圭吾のミステリーを読んでリラックスする晋作

下では K-9 とったばかりの 7 年生 Alec Getz も、K-8 とったというかその年代 No.1 の 8 年生マークタイラーも来ています。6 年生の 2359、FM Ray Robson もいるし、9 歳の No.1、Brian Luo (2043) もいます。12 歳の No.2、Parker Zhao（最高レートは 2200 以上ですがいまちょっと落としているので）Open から U2200 に変えました。晋作などはその末席の末席かもしれませんが、気軽に話しかけてきてくれる選手がどんどん増えてきています。この前会ったのは全米チーム選手権という子たちも多く、その話もしているようです。

到着後、中華で食事をしたので、夕食は試合が終わってから（最長夜中の 1 時ですが）お腹がすいていれば下の Veranda Caffé が 24 時間なので食べることにします。晋作は部屋で東野圭吾の『どちらかが彼女を殺した』を読み終え、今『悪意』を読んでいます。『学生街』は晋作も私も読み終わりました。私は『宿命』にとりかかっています。地元のナショナル TD が来ているのでなんだか安心です。

さて、第 1 戦、Board1 は昨年の屈辱をはらすべく GM HIKARU（中村ヒカル君）です。晋作は経験豊かな IM と 30 番ボードです。UMBC OPEN 以来久し振りのチェ

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

スなので緊張気味かも？でもお隣りは地元の FM エンクバットさんだし大丈夫かな？ GM エルベストさんとも挨拶しました。TD のマイクさんは晋作に「IM ノームを取りにきたのか？」といっていました。まだまだです、といっていますが、まだまだです、といっています。でもその後、友達と一緒にブリッツなどで遊んで、12 時過ぎに部屋にもどってきて、晋作にハンバーガーと私は BLT を頼みました。明日は 12 時からなのでちょっと寝坊できます。

4 月 5 日

今朝は第 2 戦、昨晚よりまた Open の人が増えて 126-7 人中晋作のレートは 96 位登録です。晋作は FM と。相手は NY のハンタースクールのコーチを HIKARU パパと一緒にしている方です。VA 界隈のトーナメントによく来られるので主人が彼に頼まれて GM との写真を撮ってあげて送ったりして以来親しくさせてもらっています。彼の友達が晋作のコーチの教え子兼友人ということでよけいに気にかけていただいています。晋作が白です。これが 2 度目の対戦で前回引き分けでしたが今回は負けてしまいました。

第 3 戦、いつもは勝てるライフマスターに負けてしまって晋作は 3 連敗です。

第 2 戦が始まる前、友人（同じ 9 年生、5 年生のときの National Grade Champ）の Black King が

昨晚なくなって、相手が来ないのにクロックを押せないことがわかり、急いで部屋にもどって晋作の予備のセットをもっていった。まだお店が出ていないので助かったようです。以前ワールド

オープンで晋作もルークがないことがわかり部屋にもどったことがあります。かならず予備の駒セットはもっていくようにしています（*）。その後彼のお母さんと 6 年生 FM（現在アメリカ最年少 FM）Ray Robson ママとしばらく立ち話しました。アジア話で結構もりあがりました。今晚から U2200 がはじまりました。明日には 3 日コースもはいつてきます。思ったよりも知り合いが多く来ていて、親子で楽しんでいます。

＊編集部注：アメリカ合衆国では大会主催者ではなく、出場する選手が盤と駒を用意しなければならない。

4 月 6 日

第 4 戦、もっと格下の 0 ポイントとやって、ここでひとつポイントがほしいところでしたが、相手



大会で対戦する晋作

は数年来の友達、USCF はちがいますが FIDE はほぼ同じ。厳しい戦いになると思いましたが、難なく勝てたようです。

第 5 戦も勝ってなんとか 2 勝です。相手は同年代、以前はそれほど強くなかったそうですが、最近 NY の Marshall Chess クラブが自宅かというほど通っている子だそうで、この前、年末に引き分けてしまった子です。どうかと思ってしていると珍しく 1 時間ちょっとであっさり勝ちました。友人達が何度も見に来ていたところ、隣のプレーヤーがいうには「稲妻のようなコンビネーション」が決まったそうです。勝つべき相手にきちんと勝ててよかったです。2 ポイントでやっとみんなの仲間入りです。これでエンジンがかかってくると思いますが…

2 戦、3 戦と相手がこのごろの

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

晋作は強いと感じていたら、そして晋作がドローをオファーしていたら、もしかしたらどちらもドローできたかもしれません。私は最終局面しか見ていませんが、どうやら勝ちにいて、攻めて負けているのだそうです。NM になって去年のように挑戦者の気持ちだけではいけないのでちょっとした壁にあたっているのでしょう。

それにしても 皆の話題は 6 年生の FM Ray Robson 君。Norm 達成は確実だけどそれが IM Norm なのか GM Norm になるのかということです。親御さんがもうやめなさいというくらい、ずっとチェス研究をやっているそうです。

U1600 に晋作の高校の先輩（12 年生、日本人ハイスクールチェスチームのキャプテン）が出ています。まだトーナメント歴は浅く、Open の長時間の大会はこれが三度目ですがチェスが好きで、考えることが好きなのでこれからどんどん伸びていくと思います。楽しみです。付き添いで来られた彼のお母様には大会期間中たいへんお世話になりました。

GM Hikaru 君は第 5 戦、引き分けてしまいました。どうされるかな？ だんだん負けがこんできたり賞金のあてがなくなってきた人達はドロップアウトしていきます。上位陣には Monroi が使われています。会場の画面にうつしだされています。ローカルな大会で、小、中学生でも何人か Monroi を持っていて使っています。1 年半前、イスタンブールで Monroi を初めて使った日本人かも？の晋作は

持ってはいませんが興味深げに見ています。

4 月 7 日

第 6 戦、USCF 2259 (FIDE 2282) に引き分け

第 7 戦、USCF 2270 (FIDE 2244) に負け

どうも今回は上の人に勝てません。そしてどちらかというと「おじ様、おじ様 killer」で同年代に弱かったのに、今回はどうしてもお年を召した方達に勝てません。

第 6 戦は負けのところ、粘って引き分けをひろいました。去年もやって去年は勝った相手です。

第 7 戦は相手の方があと 3 分で不戦敗になるところでしたがぎりぎり登場。これで晋作の集中力にちょっと異変が起こったのか、こういうことはあまりないのにオープニングで早々にミスってしまっただけで 30 分で決着がついてしまいました。ちょっと悔しかったかもしれません。でもいい経験でした。

晋作が全米学年別の最終戦で倒し、去年の晋作くらいのレートで出ている Jayson 君が絶好調で、

USCF 2500 台の IM (12 年生) に引き分けました。Eastern Open のときに FIDE のことを教えてあげたので去年は U2200 だったのが Open に挑戦してきました。おそらく今日の 2 戦も FIDE 相手だろうから FOXWOODS だけで FIDE2200 以上がいきなり出そうです。彼もどちらかという晋作タイプでスポーツほかいろんなことをやっていますが小学生時代に全米をとっているからお母さんもなんとか続けさせたいということです。弟さんも 1800 近くのレートをもっています。しばらくスランプでしたが、やっと結果がついてきてよかったです。

晋作の結果はいまいちですが、私の成果としては FM Ray 君ママとメルアド交換しました。彼らはここのホテルに泊まってくなくてコーラを買う場所もわからなくて教えてあげたりしました。FIDE 国籍の話になり、晋作は International の大会では Japan として出るということになり、World Youth に出ていないのかということになり、Juniors は出していただいたけど Youth はチームを組まないと



ホテルの部屋で棋譜を分析する晋作

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

いけないので Japan は（以前は知りませんが最近）出ていないといいました。（でもこの当時はそういうことも知らなかったのですが、彼女のいう「世界ユース」というのは「ユースチーム」ではなくて、18 歳以下までが 2 年ごとの年齢別で出る個人戦のことでした。アメリカからは毎年たくさんの選手が参加します。晋作も 14 歳で 20 歳以下の世界選手権などあまりに実力がかけ離れているものではなくて、14 歳以下とか 16 歳以下の世界ユースに出場していれば、同年代のアメリカ代表たちもいて楽しかったかも??）

チェス対戦を「見るのが」好き。チェス友達に「会うのが」楽しみ。ということで晋作はここまでやってきましたがここからは「するのが好き」「チェス勉強が好き」でないと…と同じような話を Jayson 君ママやずっと全米トップを走ってきたオールアメリカン 12 歳 Parker 君ママと話しています。彼は昨年 Open で晋作と同じ 5 ポイントでしたがここ 1 年は不調で、たまたま 4 月度が 2200 を切ったこともあり、U2200 に出ています。とまあ、母たちは勝手に雑談を楽しんでいますが私は微熱が出てきました。でも明日もう一日がんばります。明日の夜は試合終了後、恒例の Blitz があります。最後はそれで楽しんで締めくくればと思います。

4 月 8 日

第 8 戦、相手は National Chess Congress で負けた人。そのときス

コアブックを忘れられたことに気づいて渡してあげて以来挨拶をするようになり、今回、知り合いの知り合いということもわかりました。特に長時間の大会では自分よりレートが下の相手には悪くても引き分け、まず負けることはなかったのですが、今回は勝てました。彼はこの大会絶不調で不本意だったと思います。

最終戦はプエルトリコの IM。サドンデスまでいって勝ちきれず、引き分けてしまいました。

プエルトリコの No.3 でオリンピックアードでは GM の Matamoros Franco, Carlos さん（World Juniors でスペイン代表のコーチで来ていてメル友）と引き分けていることをあとで知りましたが、対戦中は勝てる、勝たなければと思っていたと思うので残念でした。（彼とは 2008 年ドレスデンでのチェスオリンピックアードで宿泊先が同じホテルで再会しました。）

私が個人的に最終戦、一番注目したのは IM Sarkar と FM Ray 君との対戦でした。IM とは昨年晋作が対戦して完敗。彼の考えるポーズは独特で、それがクビの部分のぎゅーっと下に曲げた形をしているナイトの駒に似ているので（ちょっとうまく説明できません、、、）家では「ナイトさん」と勝手に呼んでいます。Ray 君は負けてしまいましたが、とにかく 6 時間近くじっと座っているのです。ずっと集中していて、晋作が 1 手指すとすぐどこかに消えてしまう（晋作いわく「あれはエクササイ

ズ。足が疲れると席にもどってすわる。」たしかに春休み中の陸上のトレーニングメニューはもらっています、）のとは対照的です。それから 10 年の学年チャンプ M 君、フロリダで Board 1 同士、親しくなったようですが、この 3 ヶ月ほどの伸びはすばらしい。

いまいち抜け出せない晋作ですが、長丁場でドロップアウト続出のなか、最後までがんばったと思います。

大会の感想：

去年はビギナーズラックだったからでしょうか。今年はやはり厳しい大会でした。ローカルの大会でいつも会い、特に晋作も対戦したことがありブリッツでは「1 分け 1 敗」したこともあるのでよく晋作の横で立って見てくださったり、すれ違うたびに必ず会釈してくださる GM エルベスト、前回大会で引き分けた知り合いのモンゴルの FM など大きな大会ではローカルのときと全然違うように思います。ローカルではなんだか身近にいらっしゃるのでつい気軽に挨拶してしまうのですが、さすがに「格」が違うなあという感じです。晋作は 2200 の NM かもしれませんがそれはローカルに出ているときの話で、大きな大会でまだその力はないのかもしれません。でも友達がどんどん伸びてきているのも実感しているので、いい刺激をうけて続けていってくれたらと思います。一緒に行った高校の先輩もたくさんチェス友達を作られたようです。



初めての相手と、気軽に指せる楽しみ

Chess Center UENO

各 部
入 場 料 500円

営 業
時 間

木
曜 日

1部
17:00
▼
22:00

土
曜 日

1部
10:00
▼
14:00

日
曜 日

1部 2部
10:00 14:00
▼
14:00 18:00

チケットご購入
(Peatix)



※最終入場は各営業日の終了30分前です。

チェスセンター上野

東京都台東区北上野2-11-3シルバーフラット101

Access :

東京メトロ日比谷線 入谷駅 徒歩8分
東京メトロ銀座線 稲荷町駅 徒歩9分
JR/東京メトロ 上野駅 徒歩11分

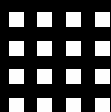
公式HP : [リンク](#)

お問い合わせ : info.chesscenterueno@gmail.com



1人でもOK

スタッフがお相手します！



各部最大16人

みんなで一緒に！



保護者の付き添いOK

未成年1人につき1人まで無料

所在地
(Google Map)



編集部

木下奏子 神田大吾
山内美加 真鍋浩
鈴木秀聡 桑田晋
森谷真理子 (順不同)

発行

一般社団法人 日本チェス連盟

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説等について、無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。
ご意見・ご感想などは japanchess.editor@gmail.com までお寄せください。